

備蓄品・非常持出品リスト（主なもの）

備蓄品リスト

- 食 品 (レトルト食品、アルファ米、缶詰等)
- 飲 料 水 (1人1日3リットル目安)
- 生活用水 (風呂の残り湯)
- 燃 料 (卓上コンロ、固形燃料、ガスボンベ)
- 救急用品 (救急箱 [ガーゼ、包帯、脱脂綿、ばんそうこう、体温計、常備薬等]、マスク、生理用品、ゴム手袋等)
- 衣 料 品 (暖かい衣類、下着、タオル、ハンカチ、雨具等)
- 消毒用品 (消毒用アルコール)
- 防災用品 (ヘルメット、軍手、懐中電灯、携帯ラジオ、笛、カイロ予備電池等)
- 火 気 (ろうそく、ライター・マッチ、固形燃料)

最低3日分、
推奨1週間分

最低3日分、
推奨1週間分

非常持出品リスト

- 非 常 食 (乾パン、缶詰等)
- 飲 料 水
- 貴 重 品 (現金、預金通帳・印鑑等)
- 情報機器 (携帯電話、モバイルPC)
- 身分証明書 (パスポート・運転免許証、保険証)
- 救急用品 (救急セット、マスク、生理用品等)
- 要配慮者用品 (粉ミルク・ほ乳瓶、紙おむつ等)
- 防災用品 (ヘルメット、軍手、懐中電灯、携帯ラジオ、笛、カイロ予備電池等)
- 衣 料 品 (暖かい衣類、下着、タオル、ハンカチ、雨具、毛布等)
- 火 気 (ろうそく、ライター・マッチ、固形燃料)

備蓄品・非常持出品は、全家庭で異なります！

高齢者のいる家庭では

- ・眼鏡、補聴器、入れ歯、杖、常備薬など
- ・おかゆなどの柔らかい食べ物

乳幼児のいる家庭では

- ・粉ミルク、ほ乳瓶、洗浄用器具、お湯を沸かす道具など
- ・離乳食 (アレルギー対応)
- ・おむつ、おしりふきなど

ペットのいる家庭では

- ・リード、ケージ、首輪や迷子札など
- ・ペットフード



災害に強い
「日本一の安全・安心県」を目指して

～正しく恐れて、正しく備える～ ふるさと富山 地震・津波防災ハンドブック



「正しく恐れて、正しく備える」とは…

- あまり「危険だ、危険だ」と言い過ぎてしまうと、災害に対して備える意欲そのものが失われてしまう。そういうことだったら、と諦めてしまう形になるおそれがあります。
- 逆に「安全だ、安全だ。富山は大丈夫だ」と言い過ぎてしまうと、今度は安心してしまって対策に手を抜いてしまうということも起きます。

いかに危険性を正しく理解し、備えるか。

そのための努力をしないとけません。

(富山県防災会議地震対策部会 室崎 益輝 部会長)

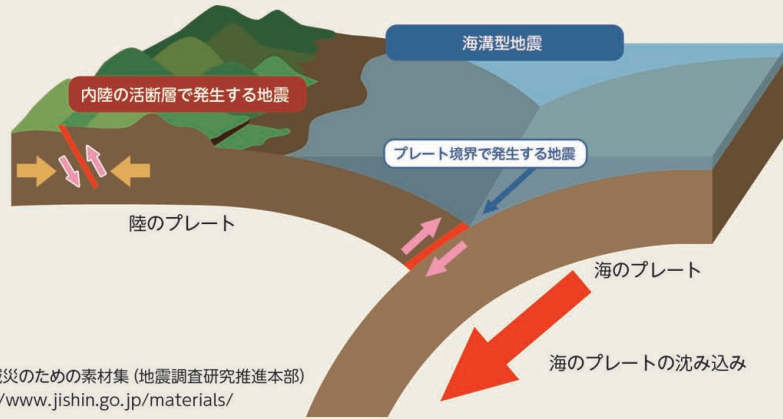
平成30年3月発行
〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
電話：076-444-3187 (富山県防災・危機管理課)

1

地震の基礎知識

地震のメカニズムとその特徴

地震には、①活断層で発生する「内陸活断層型地震」と、②海底のプレートが引き起こす「海溝型地震」があり、富山県で想定されている地震は、①の内陸活断層型地震です。

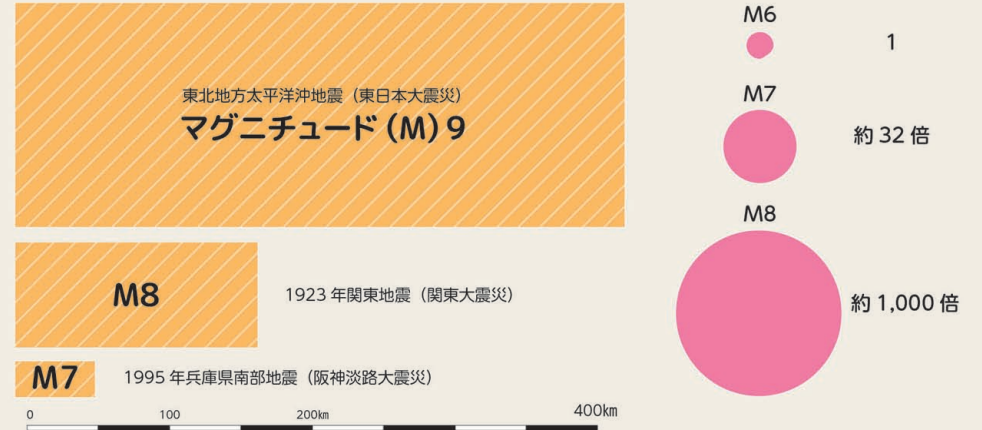


出典：減災のための素材集 (地震調査研究推進本部)
<https://www.jishin.go.jp/materials/>

種別	内陸型地震 (陸域の浅い地震)	海溝型地震 (プレート間地震)
発生の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> プレート運動による間接的なひずみが岩盤に蓄積 地下の比較的浅い部分で断層運動が起こり、地震が発生 	<ul style="list-style-type: none"> 海のプレートが陸のプレートの下に沈み込む際に、陸のプレートの先端部を引きずり込み、ひずみを蓄積 ひずみが限界に達したとき、陸のプレートの先端部が跳ね上がり、地震が発生
イメージ図		
地震の規模	マグニチュード7.0程度	マグニチュード8.0以上 (最大マグニチュード9.0)
活動間隔	数千年から数万年の長い間隔	数十年から数百年程度の短い間隔
地震発生層の深さ	約20kmより浅い所	約10~40km
断層の数	多数	一つの境界面

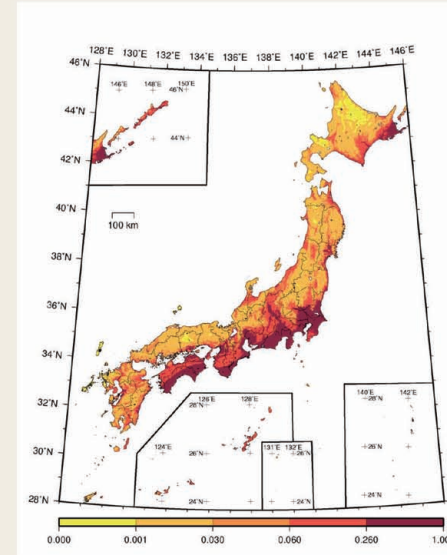
地震の大きさは、地震により隆起する地盤の 広さ (面積)、高さ (すべり量) に比例します。

地震のエネルギーは、マグニチュードが1増えると、約32倍になります。



日本で繰り返し発生する地震

全国で発生した地震のデータを見ると、マグニチュード7級は1年に1回程度、マグニチュード8級は10年に1回程度発生しており、日本全国どこで地震が発生してもおかしくない状況です。



確率的地震動予測地図：確率の分布
 今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

地震調査研究推進本部「全国地震動予測地図 地図編 2017年版」

2016年	4月14日/16日	M6.6/7.3	熊本地震
2011年	3月11日	M9.0	東北地方太平洋沖地震
2008年	6月14日	M7.2	岩手・宮城内陸地震
2007年	7月16日	M6.8	新潟県中越沖地震
2007年	3月25日	M6.9	能登半島地震
2005年	8月16日	M7.2	宮城県沖の地震
2005年	3月20日	M7.0	福岡県西方沖の地震
2004年	10月23日	M6.8	新潟県中越地震
2003年	9月26日	M8.0	十勝沖地震
2003年	5月26日	M7.1	宮城県沖の地震
2000年	10月6日	M7.3	鳥取県西部地震
1995年	1月17日	M7.3	兵庫県南部地震
1994年	12月28日	M7.6	三陸はるか沖地震
1994年	10月4日	M8.2	北海道東方沖地震
1993年	7月12日	M7.8	北海道南西沖地震

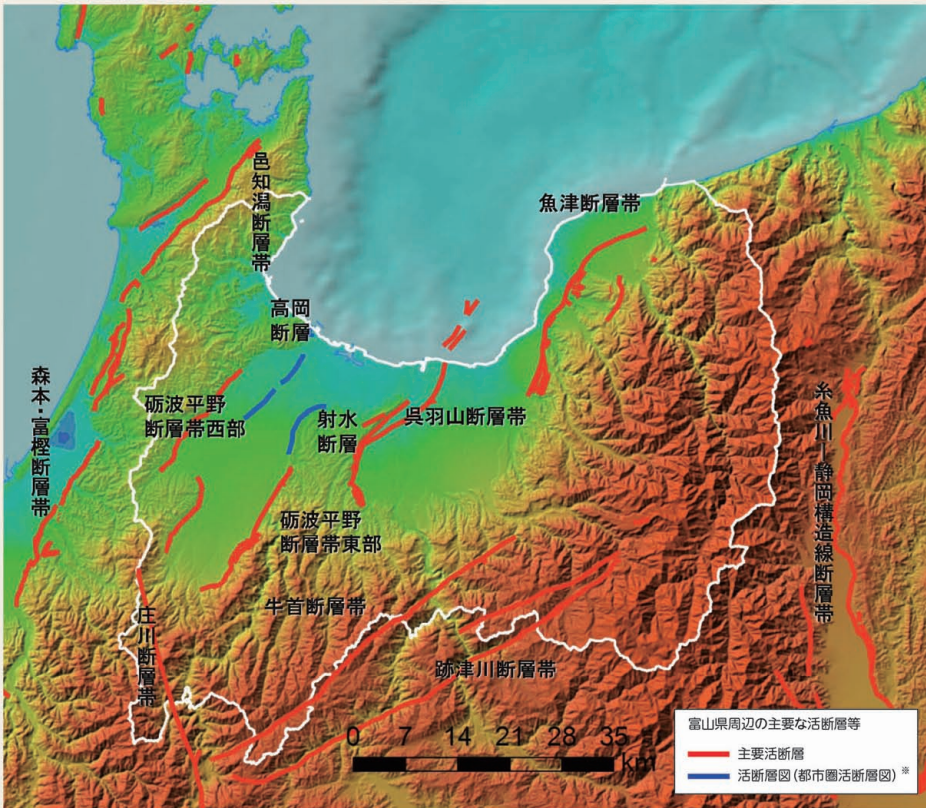
2

富山県の地震

県内の主要な活断層

地震・津波災害対策にあたっては、富山県ではどのような地震や津波が起こるのか、また、大きな地震や津波が起こった場合に、どのような被害が想定されるのかを知っておくことが大切です。

文部科学省に設置されている地震調査研究推進本部では、下図のとおり主要な活断層を調査しています。



☆活断層とは、過去に繰り返し地震を起こし、将来も活動する可能性のある断層のことをいいます。

※活断層図(都市圏活断層図)の断層は、国土地理院が、大地震の際に大きな被害が予想される都市域とその周辺について、活断層の位置を示したもので、地震の発生確率等の評価はまだ行われていません。

断層帯名	地震規模	発生リスクの相対的評価	地震発生確率(30年以内)	平均活動間隔	最新活動時期	
富山県	呉羽山断層帯	M7.4	S(高い)	ほぼ0%~5%	3,000年~5,000年程度	約3,500年前~7世紀
	砺波平野断層帯東部	M7.0	S(高い)	0.04%~6%	3,000年~7,000年程度	約4,300年前~3,600年前
	砺波平野断層帯西部	M7.2	A(やや高い)	ほぼ0%~2%もしくはそれ以上	約6,000年~12,000年もしくはそれ以下	約6,900年前~1世紀
	魚津断層帯	M7.3	A(やや高い)	0.4%以上	8,000年程度以下	不明
	庄川断層帯	M7.9	Z(—)	ほぼ0%	約3,600年~6,900年	11~16世紀
	牛首断層帯	M7.7	Z(—)	ほぼ0%	約5,000年~7,100年	11~12世紀
	跡津川断層帯	M7.9	Z(—)	ほぼ0%	約2,300年~2,700年	1858年飛越地震
石川県	森本・富樫断層帯	M7.2	S(高い)	2~8%	1,700年~2,200年程度	約2,000年前~4世紀
	邑知潟断層帯	M7.6	A(やや高い)	2%	約1,200年~1,900年程度	約3,200年前~9世紀

(参考) 平成7年兵庫県南部地震及び平成28年熊本地震発生直前における確率

断層帯名	発生した地震規模	地震発生確率(30年以内)	平均活動間隔	最新発生時期
六甲・淡路島断層帯中部淡路島西岸区間「野島断層を含む区間」	M7.3	0.02%~8%	約1,700年~3,500年	—
布田川断層帯布田川区間	M7.3	ほぼ0%~0.9%	8,100年~26,000年程度	約6,900年前以後~約2,200年前以前



<住家被害の様子：兵庫県南部地震>



<住家被害の様子：熊本地震>

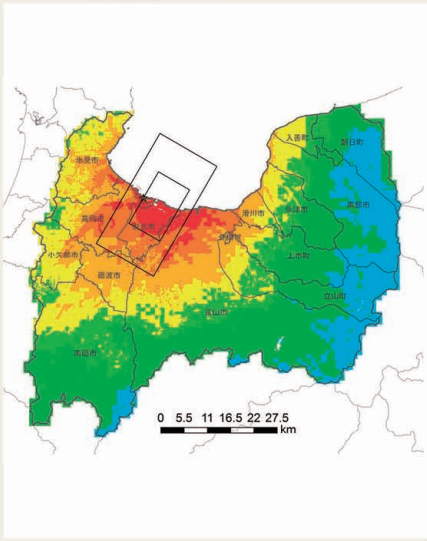
出典：一般財団法人消防防災科学センター「災害写真データベース」
http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do

富山県職員撮影

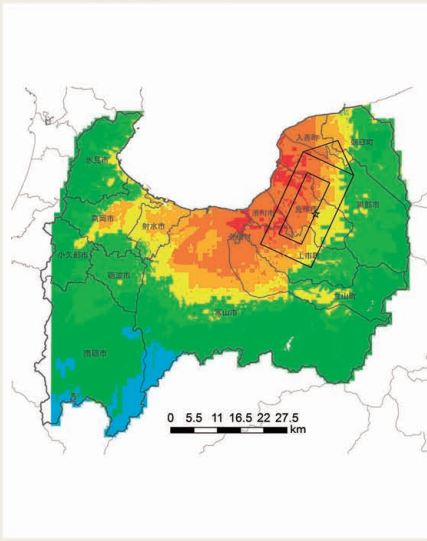
2 県内の活断層

震度分布予測地図 各々の断層帯で地震が起きたときの揺れの大きさを予測したものです。

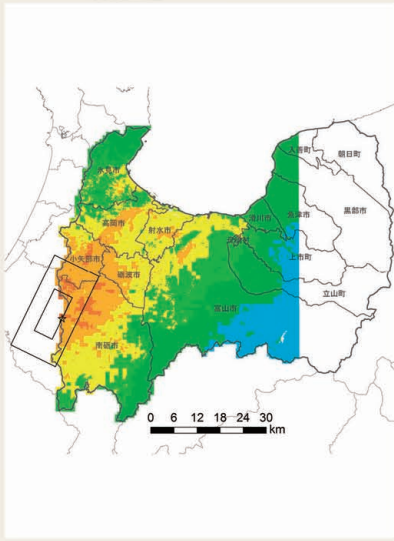
呉羽山断層帯



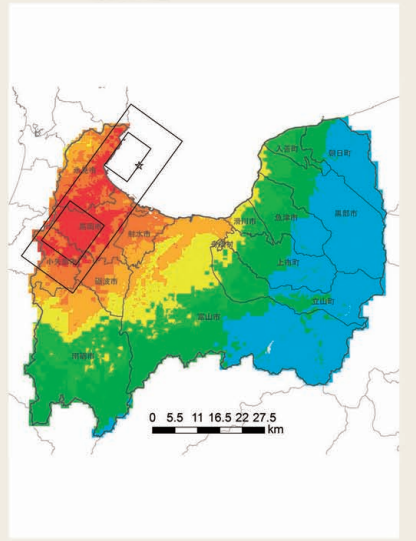
魚津断層帯



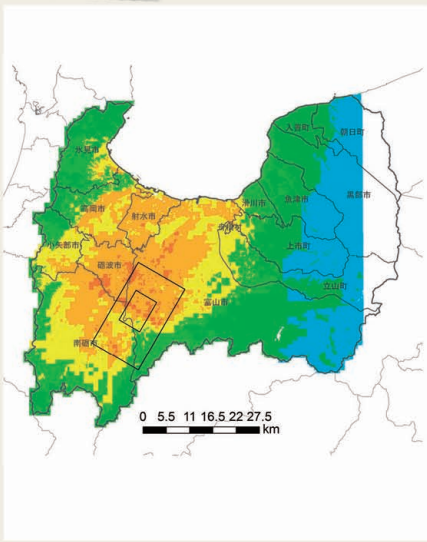
森本・富樫断層帯



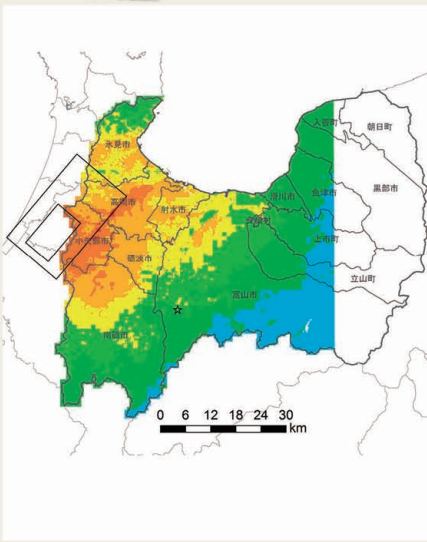
邑知潟断層帯



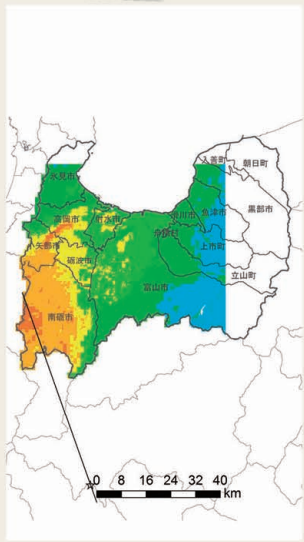
砺波平野断層帯東部



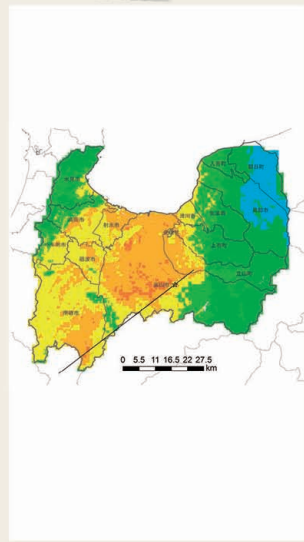
砺波平野断層帯西部



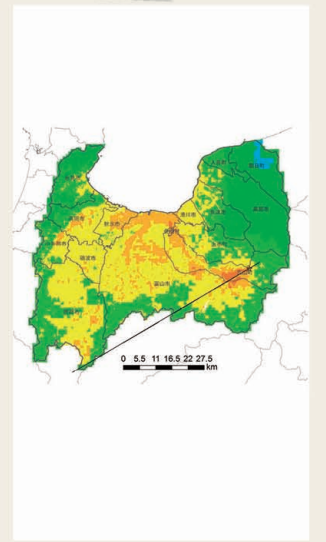
庄川断層帯



牛首断層帯



跡津川断層帯



3 地震による被害想定

県では、大きな被害が想定される呉羽山断層帯、砺波平野断層帯西部、森本・富樫断層帯、邑知瀧断層帯を震源とする地震について、県内の建物状況や国の地震研究に関する知見などを踏まえ、被害想定調査を行うとともに、地震防災対策を推進した場合の人的被害の軽減効果を予測しています。

(1) 県全体の被害

震源となる断層帯	物的被害						人的被害	
	建物(棟)		火災・延焼(棟)	落下物(棟)	ブロック塀等(件)	自動販売機(件)	死者(人)	負傷者(人)
	全壊	半壊						
呉羽山断層帯	90,424	273,752	3,711	37,390	29,726	3,057	4,274	20,958
砺波平野断層帯西部	14,312	42,842	102	2,967	359	0	431	5,795
森本・富樫断層帯	3,545	21,156	0	264	0	0	65	2,104
邑知瀧断層帯(ケース4)	89,066	80,590	1,008	46,287	6,534	0	3,557	19,590

市町村別では、県西部を中心に、呉羽山断層帯以外の断層帯による被害が最大となりました。(色付きは、全壊の建物被害が最も大きい断層帯)

市町村	震源となる断層帯	物的被害						人的被害	
		建物(棟)		火災・延焼(棟)	落下物(棟)	ブロック塀等(件)	自動販売機(件)	死者(人)	負傷者(人)
		全壊	半壊						
富山市	呉羽山断層帯	31,073	91,544	10	10,042	11,401	1,448	1,451	8,389
	砺波平野断層帯西部	0	765	0	0	0	0	0	79
	森本・富樫断層帯	0	400	0	0	0	0	0	47
	邑知瀧断層帯(ケース4)	713	9,475	0	1	0	0	18	1,243
高岡市	呉羽山断層帯	27,623	51,984	3,298	10,440	8,828	696	1,556	2,847
	砺波平野断層帯西部	6,656	17,449	61	1,436	291	0	254	2,937
	森本・富樫断層帯	245	4,543	0	0	0	0	3	568
	邑知瀧断層帯(ケース4)	46,574	27,278	586	26,960	4,138	0	1,996	9,311
魚津市	呉羽山断層帯	40	9,347	0	0	151	27	2	917
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース1)	0	69	0	0	0	0	0	5
氷見市	呉羽山断層帯	2,926	12,009	0	776	877	112	101	1,484
	砺波平野断層帯西部	284	2,856	0	0	0	0	2	325
	森本・富樫断層帯	6	64	0	0	0	0	0	5
	邑知瀧断層帯(ケース2)	19,322	8,135	245	13,616	1,968	0	862	3,365
滑川市	呉羽山断層帯	279	7,191	0	11	412	86	13	675
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース1)	0	376	0	0	0	0	0	33
黒部市	呉羽山断層帯	61	8,998	0	0	113	27	2	795
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース1)	0	180	0	0	0	0	0	20
砺波市	呉羽山断層帯	826	16,083	0	30	631	145	18	1,163
	砺波平野断層帯西部	468	4,508	0	0	0	0	1	335
	森本・富樫断層帯	38	2,313	0	1	0	0	0	131
	邑知瀧断層帯(ケース4)	5,473	9,659	53	1,330	59	0	124	1,147
小矢部市	呉羽山断層帯	34	10,239	0	0	104	35	1	673
	砺波平野断層帯西部	5,237	7,048	41	1,437	68	0	150	1,189
	森本・富樫断層帯	894	4,345	0	69	0	0	19	470
	邑知瀧断層帯(ケース4)	11,331	5,488	88	6,289	479	0	354	1,664

市町村	震源となる断層帯	物的被害						人的被害	
		建物(棟)		火災・延焼(棟)	落下物(棟)	ブロック塀等(件)	自動販売機(件)	死者(人)	負傷者(人)
		全壊	半壊						
南砺市	呉羽山断層帯	54	19,322	0	0	139	31	1	1,118
	砺波平野断層帯西部	1,580	7,290	0	94	0	0	22	627
	森本・富樫断層帯	2,362	8,995	0	194	0	0	43	838
	邑知瀧断層帯(ケース4)	1,235	5,939	0	99	0	0	16	489
射水市	呉羽山断層帯	27,419	25,948	403	16,091	6,764	367	1,127	1,299
	砺波平野断層帯西部	87	2,926	0	0	0	0	2	303
	森本・富樫断層帯	0	496	0	0	0	0	0	45
	邑知瀧断層帯(ケース2)	7,789	13,719	52	2,270	507	0	342	2,684
舟橋村	呉羽山断層帯	0	493	0	0	38	9	0	59
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース1)	0	7	0	0	0	0	0	1
上市町	呉羽山断層帯	30	4,488	0	0	152	44	1	389
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース2)	43	379	0	3	0	0	1	36
立山町	呉羽山断層帯	59	7,105	0	0	110	29	1	544
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース4)	0	0	0	0	0	0	0	0
入善町	呉羽山断層帯	0	9,001	0	0	6	1	0	606
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース4)	0	0	0	0	0	0	0	0
朝日町	呉羽山断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	砺波平野断層帯西部	0	0	0	0	0	0	0	0
	森本・富樫断層帯	0	0	0	0	0	0	0	0
	邑知瀧断層帯(ケース4)	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 人的被害の軽減効果

県耐震改修促進計画(H28.10改定)の住宅耐震化目標(H33耐震化率85%、H37耐震化率90%)を達成した場合、人的被害(死者)は大幅に減少することが見込まれています。

予測死者数	耐震化率	現状※	住宅の耐震化率を上したした場合	
			85%	90%
			2,107人 (▲2,167人)	1,879人 (▲2,395人)
予測死者数	呉羽山断層帯	4,274人	234人 (▲197人)	158人 (▲273人)
	砺波平野断層帯西部	431人	34人 (▲31人)	23人 (▲42人)
	森本・富樫断層帯	65人	2,215人 (▲1,342人)	1,701人 (▲1,856人)
	邑知瀧断層帯(ケース4)	3,557人		

※現状は、住宅・土地統計調査による推計値で、呉羽山断層帯は68%(H20)、砺波平野断層帯西部、森本・富樫断層帯、邑知瀧断層帯は72%(H25)

4 地震発生時の行動

地震が発生してから避難するまでのおおよその時間割は次のとおりです。自宅外で被災する場合がありますので、各々の可能性がります。橋が破損して通行不能となるおそれもあります。なお、海岸付近にいる時に地震が発生した場合、津波

場合の留意点も確認しておきましょう。また、多くの場所で家屋の倒壊、火災が発生し、場合によっては停電や断水も生じることがあるおそれがありますので、注意しておきましょう。(津波発生時の行動については15ページを参照)

「自宅で被災した場合」

発生直後

「地震発生0分～2分」

●自分と家族の安全確保

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら、近くの丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠しましょう。身を隠す場所が近くにない場合は、座ぶとんやクッションなどで頭部を守りましょう。揺れが大きく動けない場合は、姿勢を低くして頭部を守り、無理に動かないようにしましょう。



「地震発生2分～5分後」

●火の始末と初期消火

大きな揺れの際、火を始末する行動はかえって危険です。揺れがおさまってから火を消しましょう。ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とします。万一出火したら、消火器などでボヤのうちに消し止めましょう。大声で隣近所に声をかけ、協力して初期消火に努めます。



「地震発生5分～10分後」

●逃げ道の確保

大きな揺れがおさまったら、玄関などの扉を開けて逃げ道を確保しましょう。揺れはほとんどの場合、1分程度でおさまります。あわてて外へ飛び出さずに、周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。



「地震発生10分～半日後」

●近所の安否確認

地震発生時は家屋の倒壊などにより多数の生き埋め者の発生が予想されますが、消防・警察などだけでは十分な対応ができません。隣近所が協力して安否確認や救出・救助にあたりましょう。



●避難

動きやすい服装で、持ち物は必要最小限にして背負い、必ず靴を履いて徒歩で避難します。自力で避難できない避難行動要支援者(高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦など)の方々には、逃げ遅れないよう声を掛け合い、協力して避難しましょう。



「自宅外で被災した場合」

エレベーター

自動で停止しないときは全ての階のボタンを押し、停止した階で外へです。閉じ込められた場合は非常ボタンやインターホンで外部と連絡を取ります。



車の運転中

急ブレーキは事故のもと。徐々にスピードを落として道路の左側に停止してエンジンを切ります。車を離れる際には、キーを付けたままロックしないようにしましょう。



山際、急傾斜地、川

山崩れ・がけ崩れが起こりやすい場所からは速やかに避難し、間に合わなければ大きな木の陰に隠れましょう。川の流れからは直角方向へ逃げましょう。



路上

その場に立ち止まらず、窓ガラスや看板など落下物に注意して移動し、空き地や公園など安全な場所に避難します。ブロック塀や自動販売機に近づかないようにします。垂れ下がった電線には絶対に触ってはいけません。



電車やバスの中

つり革や手すりにしっかりつかまりましょう。網棚からの荷物の落下に備え、頭を手荷物で守りましょう。勝手に降車せず、係員の指示に従いましょう。



緊急地震速報とは

- 緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえたデータに基づき、強い揺れが来ることをすばやく知らせる情報です。
- 周りの人にも声をかけながら、あわてず、まず身の安全を確保しましょう。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが届くまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。
- 震源から遠い場所では、強い揺れが届くまでに時間がかかりますので、揺れがなくても、見聞きしてから1分程度は身を守るなど警戒しましょう。
- ただし、震源から近い場所では揺れが届く方が早いので、直ちに身を守る行動をとりましょう。



5

富山県の津波

県では、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、最大クラスの津波が悪条件下で発生することを前提に、シミュレーション調査を実施し、津波による浸水想定面積、最高津波の水位や到達時間、津波による人的被害などを予測しています。

太平洋側で発生する海溝型地震による津波との違いについて

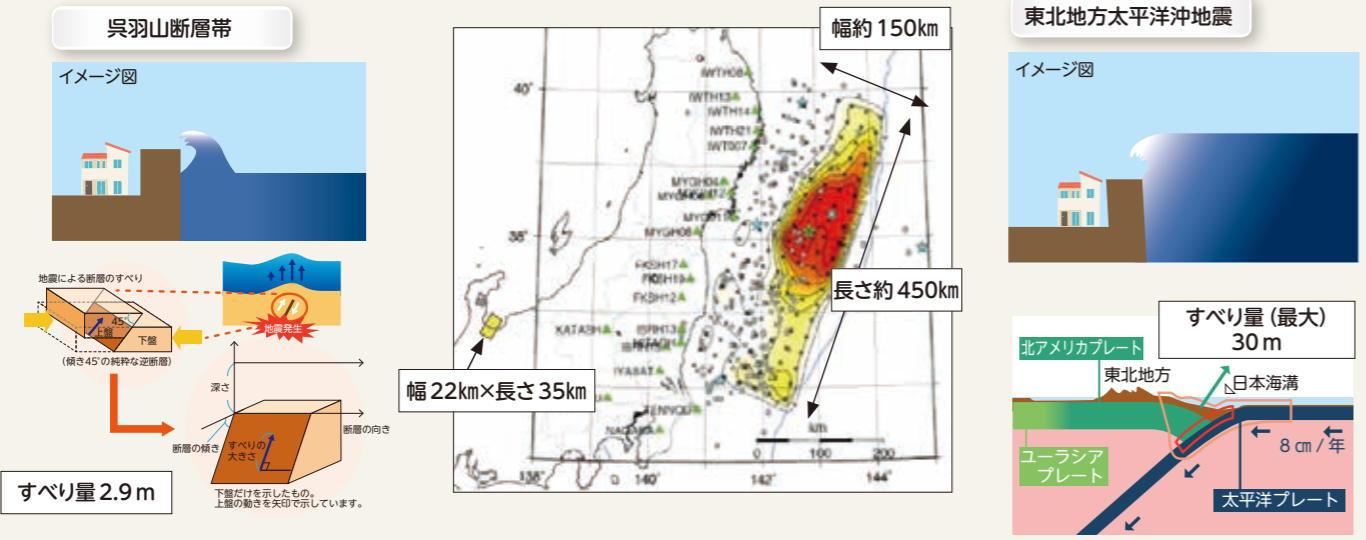
津波は、地震によって隆起する地盤の広さや高さによって、その発生範囲や水位が異なり、東北地方太平洋沖地震のような海溝型地震による津波は、一般的に、地震により隆起する地盤の高さ、広さが大きいことから、広範囲にわたって発生し、しかも、その高さは高く、継続時間も長くなる傾向にあります。

一方、本県で想定される断層型地震による津波は、海溝型地震に比べると、一般的に、地震により隆起する地盤の高さ、広さが小さいことから、その発生範囲は狭くなり、高さは低く、継続時間も短くなる傾向にあります。

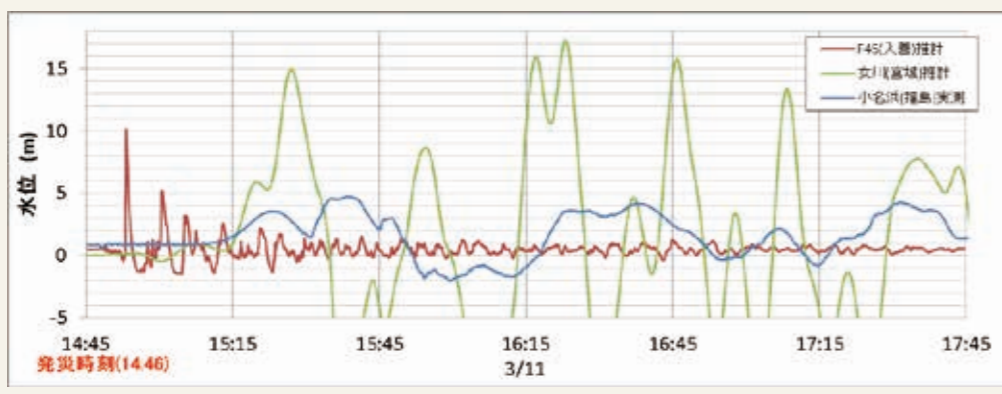
※2つの地震の発生する仕組みや違いは、1ページを参照してください。

《富山県の津波と東北地方太平洋沖地震による津波との違い》

①地震により隆起する地盤の比較



②波形図の比較



《富山県の津波の主な特徴》

- ・浸水深5mを超える区域は、沿岸から概ね10m以内で、沿岸のごく一部の地域に限られる。
 ※「3m以上5m未満」→沿岸から概ね20m以内(一部の地域で最大200m)
 「1m以上3m未満」→沿岸から概ね200～300m以内(一部の地域で最大400m)
 - ・津波水位は、入善町の10.2mが最高(法律に基づく津波浸水想定の対象断層F45)。
 - ・最高水位は第1波又は第2波で、その後、急激に減衰する(継続時間が短い)。
 - ・海面が変動を開始する時間が全般的に早い。また、最高津波の到達時間が早い地域もある。
- 〔例：富山湾西側(F45)の場合→入善町10.2mが7分後、呉羽山断層帯の場合→滑川市6.8mが3分後、糸魚川沖(F41)の場合→高岡市3.3mが16分後、に到達〕
- ※富山県の津波の特徴を理解したうえで、想定以上の津波高や浸水範囲となる場合にも備えておきましょう。

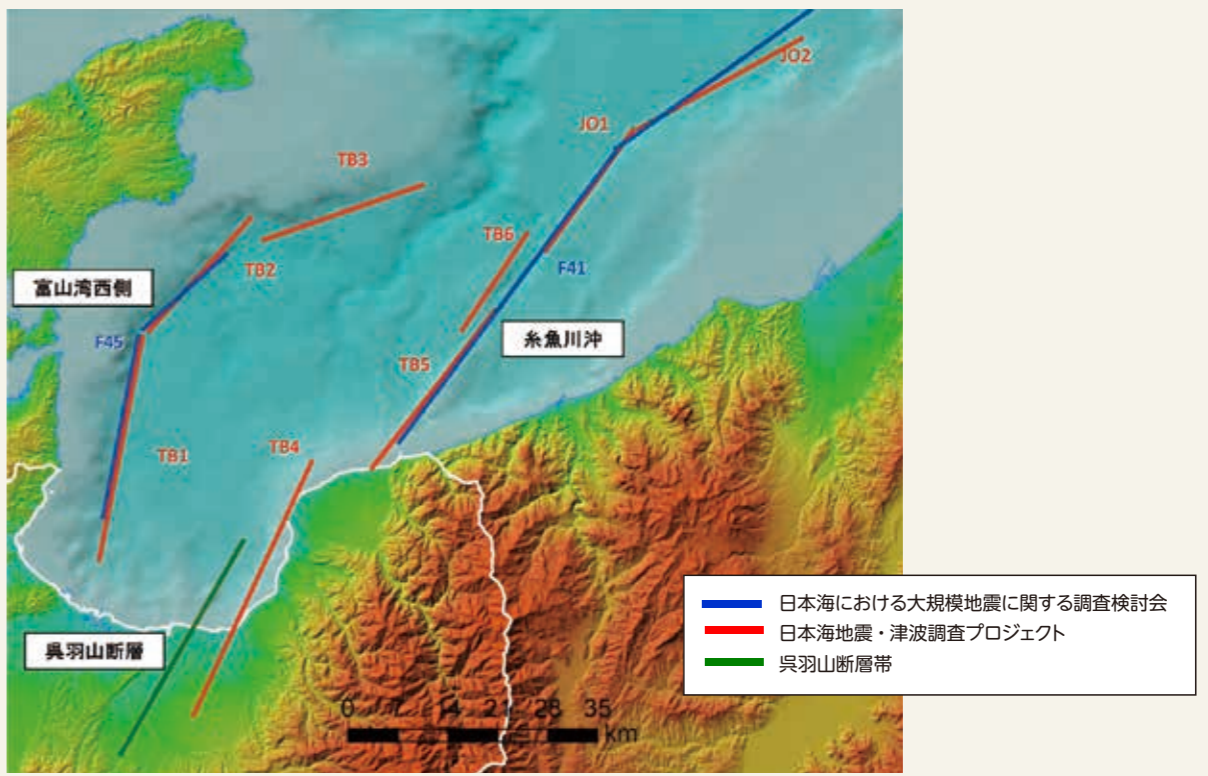
県内に影響を及ぼすおそれのある最大クラスの津波を引き起こす断層

富山県に影響を及ぼすおそれのある最大クラスの津波を引き起こす断層は、「日本海における大規模地震に関する調査検討会」と「日本海地震・津波調査プロジェクト」から、次のとおり断層モデルが公表されています。

津波防災地域づくりに関する法律に基づく津波対策の基礎となる津波浸水想定の設定に必要な調査の対象とする断層は、検討会が公表した糸魚川沖(F41)と富山湾西側(F45)の断層、呉羽山断層帯です。

日本海地震・津波調査プロジェクトが公表した断層は、県民の安全・安心のため、防災上の観点から参考として調査したものです。

※「参考」とは、法に基づくものではないという意味です。



《最高津波の水位と到達時間》

沿岸市町	糸魚川沖 (F41)		富山湾西側 (F45)		呉羽山断層帯		TB1 & 2 (連動)	
	最高津波水位 (T.P.m)	最高津波到達時間 (分)	最高津波水位 (T.P.m)	最高津波到達時間 (分)	最高津波水位 (T.P.m)	最高津波到達時間 (分)	最高津波水位 (T.P.m)	最高津波到達時間 (分)
氷見市	3.8	15	7.2	10	4.6	25	6.4	10
高岡市	3.3	16	3.2	18	2.4	28	4.1	17
射水市	3.5	64	4.2	7	4.1	17	6.0	4
富山市	4.3	48	4.7	11	5.5	2	6.2	11
滑川市	3.1	16	5.6	9	6.8	3	7.5	9
魚津市	3.1	16	4.9	6	5.5	2	6.4	6
黒部市	3.2	19	5.0	6	3.6	4	6.1	6
入善町	5.3	27	10.2	7	2.7	10	11.5	7
朝日町	5.7	40	6.3	9	2.8	33	8.0	9

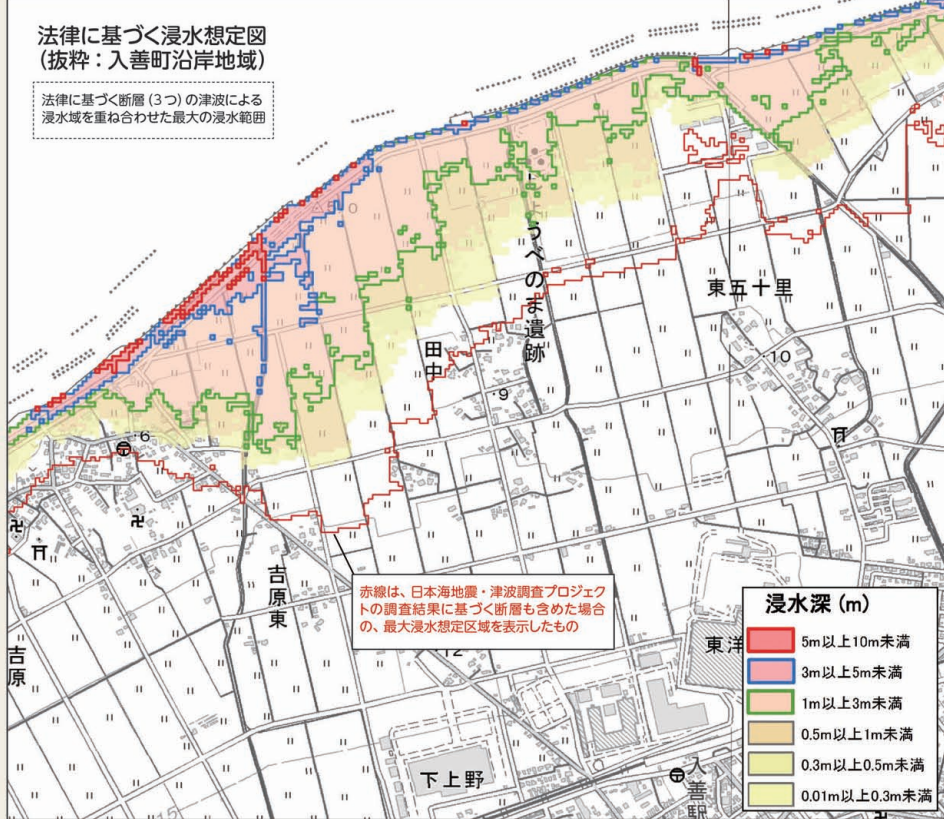
富山湾沿岸で発生しうる最大クラスの津波は、歴史記録に知られておらず、どのような現象が起きるか想像しにくい。そのような中、想定される大津波の波高(水位)は、より頻繁に発生する寄り周り波と同等であるということから、県民の理解を促進し、防災対策を講じる上で、両者を比較する意義は大きい。

〔富山県防災会議地震対策部会 竹内専門委員 富山大学名誉教授〕

5 富山県の津波

〈浸水想定面積〉

沿岸市町	断層別浸水想定面積 (km ²)					
	糸魚川沖 (F41)	富山湾西側 (F45)	呉羽山断層帯	左の3断層重ね合わせ	<参考> TB1&2 (運動)	全9断層重ね合わせ
氷見市	2.0	1.5	1.9	2.4	2.7	2.9
高岡市	0.7	0.3	0.3	0.7	0.6	0.8
射水市	5.1	1.8	3.1	5.4	2.9	5.5
富山市	2.0	1.4	1.6	2.5	2.7	3.1
滑川市	0.1	0.3	1.2	1.2	1.1	1.3
魚津市	0.4	0.5	0.7	0.8	1.1	1.1
黒部市	0.5	1.6	0.5	1.6	3.0	3.0
入善町	0.5	2.8	0.1	2.8	4.1	4.1
朝日町	0.5	0.4	0.1	0.5	0.8	0.8
合計	11.8	10.6	9.4	17.9	19.1	22.7



各沿岸地域の浸水想定図は、県ホームページからご覧いただけます。
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1004/kj00017580.html

※日本海地震・津波調査プロジェクトの断層も含めた津波浸水想定図は、法律に基づくものでないため参考としていますが、沿岸市町や沿岸地域にお住まいの県民の皆さんが、その地域の津波リスクを理解し、避難場所や避難経路などを具体的に検討される際などに、想定外ということがないように、活用していただくためのものです。

〈被害想定 (建物被害、人的被害)〉

沿岸市町	糸魚川沖 (F41)			富山湾西側 (F45)			呉羽山断層帯			<参考> TB1&2 (運動)		
	想定地震規模 M7.6 想定長さ 86km 想定平均すべり量 4.66m			想定地震規模 M7.2 想定長さ 43km 想定平均すべり量 2.77m			想定地震規模 M7.4 想定長さ 35km 想定平均すべり量 2.90m			想定地震規模 M7.3 想定長さ 54km 想定平均すべり量 3.03m		
	木造建物 (棟)		死者 (人)	木造建物 (棟)		死者 (人)	木造建物 (棟)		死者 (人)	木造建物 (棟)		死者 (人)
	全壊	半壊		全壊	半壊		全壊	半壊		全壊	半壊	
氷見市	220	363	12	4	44	21	165	418	6	92	486	78
高岡市	1	53	1	3	16	2	0	3	0	20	25	6
射水市	43	362	6	0	73	4	9	182	9	0	181	28
富山市	67	132	0	31	48	2	16	55	9	40	244	17
滑川市	0	8	0	3	29	2	89	426	38	69	271	27
魚津市	0	93	15	3	78	21	11	180	31	112	489	63
黒部市	0	3	1	9	147	41	0	6	6	154	650	119
入善町	0	0	0	7	62	11	0	0	0	40	237	31
朝日町	1	6	0	1	2	1	0	0	0	4	12	5
計	332	1,020	35	61	499	105	290	1,270	99	531	2,595	374

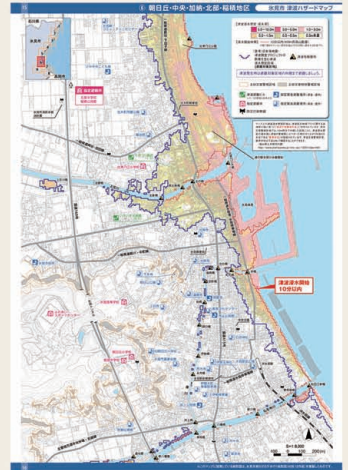
〈避難開始迅速化等による人的被害の軽減効果〉

想定地震	早期避難率 低		早期避難率 高 + 呼びかけ		全員迅速避難	
	早期避難 用事後避難 切迫避難・避難無	20% 50% 30%	早期避難 用事後避難	70% 30%	早期避難	100%
糸魚川沖 (F41)	(+57人)	92人	35人	(▲18人)	17人	
富山湾西側 (F45)	(+13人)	118人	105人	(▲7人)	98人	
呉羽山断層帯	(+20人)	119人	99人	(▲6人)	93人	
<参考> TB1&2 (運動)	(+22人)	396人	374人	(▲13人)	361人	

津波ハザードマップ

沿岸市町では、県の津波シミュレーション調査結果を基に、津波ハザードマップを作成することとしています。
 ハザードマップには、津波が起こった場合に浸水が想定される区域や、避難所の位置などが記載されています。万が一の津波から安全に避難できるよう、お住まいの地域の津波ハザードマップで、避難経路や最寄の避難所などを確認しておきましょう。

例：氷見市



6

津波発生時の行動

津波から身を守るには、津波が届かない場所へ避難するしかありません。また、ハザードマップは想定の一つですが、想定以上に大きな津波が来たときのこともお考えおきましょう。
津波の危険がある場所では、揺れを感じたらすぐに避難することが重要です。

このようなときには



強い揺れや、長い揺れを感じた

「大津波警報（特別警報）」
「津波警報」を見聞きした

「津波注意報」を見聞きした

直ちに避難する

- 強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、また、体で揺れを感じなくても、「津波警報」等を見聞きしたら、いち早く沿岸部や川沿いから離れ、直ちに近くの高台や津波避難ビルなど、可能な限り高い場所へ避難してください。**ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。**
- ライフジャケット（救命胴衣）の準備も有効と考えられます。



避難に備える

- 海の中にいる場合は、直ちに海から上がって、海岸から離れてください。
- 沿岸部や川沿いなど津波の危険がある区域にいる場合は、いつでも避難できるように準備してください。
- 「予想される津波の高さ」、「津波到達予想時刻」などの情報を見聞きしたら、直ちに安全な場所に避難しましょう。



● 津波は想像を超える速さ、あるいは想像を超える場所からやってくることを認識しておきましょう。

- 余震により再度津波が発生する場合があります。警報・注意報が解除され**安全が確認されるまでは、決して戻ってはいけません。**
- 正しい情報をラジオ・テレビなどで入手しましょう。



このような行動を

その後は

津波避難3原則

「釜石市津波防災教育のための手引き」より

一、想定を信じるな

- …「相手は自然であり、到着時間や高さ等、人間の想定どおりの津波が来るとは限らない」
- 津波浸水区域を示したハザードマップ等の情報を鵜呑みにしないこと

一、最善を尽くせ

- …「そのときできることに全力を注ぐ。少しでも早く、少しでも高い場所に避難する」
- 指定された避難場所だからと安心せず、もっと安全な場所に行けるのであればそこを目指して避難し続けること

一、率先避難者たれ

- …「いざというとき、人間は自分から進んで避難しようとしにくい傾向がある」
- 「まずは自分が率先して避難する」そういう心の準備をしておく。誰かが避難している姿が、周りの人々の避難を促し、多くの命を救うことにつながる

<参考> 浸水深と被害程度 気象庁 HP より作成

浸水深 (m)	1	2	4	8	16	32
木造家屋	部分的破壊	全面破壊				
石造家屋	持ちこたえる		全面破壊			
鉄筋コンクリートビル	持ちこたえる			全面破壊		
防潮林	被害軽微 津波軽減	漂流物阻止	部分的被害 漂流物阻止	全面的被害 無効果		

！ 津波と避難に関する標識を覚えておきましょう。



津波注意

「地震が起きた場合、津波が襲ってくる危険性が高い地域」



津波避難場所

「津波に対して安全な避難場所・高台」



津波避難ビル

「まわりに高台がない場合に利用する、津波から避難できる高さ・耐震性のあるビル」

7 日頃の備え

県内には多くの活断層があり、これらが活動した場合、マグニチュード7程度の大地震になると推定されます。また、津波が発生する場合についても、地震による家屋倒壊等の大きな被害を受けます。
 阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の教訓に学び、日頃の備えに万全を期しましょう。

住宅の耐震化と家具の転倒防止

阪神・淡路大震災では、亡くなった方の8割以上が、建物の倒壊や家具の転倒による窒息死・圧死でした。また、けがをした方の半数近くは、家具の転倒によるものでした。
 建物の安全性を高めるなど、「命を守る」「けがをしない」ための環境づくりが、地震対策の第一歩です。

耐震化の支援

昭和56年5月以前に着工した木造住宅は、耐震診断を受けましょう！

①耐震診断
 (富山県木造住宅耐震診断支援事業)
 住まいの耐震診断について
県が9割負担
 自己負担は、住宅規模などに応じて
2,000円～6,000円

次の要件を満たす住宅が対象
 1. 木造の一戸建てで、2階建て以下のもの
 2. 昭和56年5月31日以前に着工して建てられたもの
 3. 在来軸組工法によるもの
 (柱・梁・筋かいで支える工法です)

②耐震改修
 (富山県木造住宅耐震改修支援事業)
 住まいの耐震改修について
最大60万円まで補助

耐震改修の工事費について、県と市町村が支援します。(部分的な改修も補助対象)

詳しくは、富山県のホームページを確認!
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1507/kj00002134.html

耐震性が不十分な場合

家具の転倒防止

照明器具 取り付け式の照明器具は、チェーンと金具で数カ所を固定します。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておきます。

金具で固定 **転倒防止ベルト**

タンス・本棚 タンス・本棚はしっかり固定しましょう。上下に分かれている家具は継ぎ目を金具で連結しておきます。

テレビ・パソコン テレビを固定するには粘着マットやストラップ式の固定器具を使う方法などがあります。

食器棚 両開き扉タイプの食器棚は、扉が開かないように止め金具を付けます。ガラス面には飛散防止フィルムを貼ると安全です。

冷蔵庫 ベルトの取り付け口や取っ手に転倒防止用のベルトを通して、ベルトの端を壁の下地材のあるところに固定しましょう。

粘着マット

食料・飲料水の確保

災害発生直後は、救援物資が十分に行き渡らない場合があります。非常食や飲料水などは、最低3日分(推奨1週間分)を家庭で備蓄しておきましょう。

備蓄品の例

食料
 お米やアルファ米、レトルト食品や缶詰、カップ麺など。

飲料水
 水(飲料と煮炊き分)は大人1人1日あたり3リットルが目安。水の配給を受けるためのポリ容器もあるとよいです。

燃料
 卓上コンロや固形燃料、予備のカセットガスなど。

工具類
 救助活動に使えるパール、のこぎり、ハンマー、ロープ、スコップなど。

その他
 簡易トイレ、毛布・寝袋、防寒具、紙皿・紙コップ、マスク、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ・トイレトペーパー、電池式ラジオ、ライフジャケットなど。

備蓄のポイント!

- 食料や飲料水は最低3日分、できれば1週間分を備蓄。
 大人1人1日あたり、水は3リットル、食料は2,000キロカロリーが目安。
 - 食料は消費期限、ラジオなどの電化製品は電池切れなどに注意。
 乾電池やカセットガスなどは余分に用意します。
 - 家族構成などで備蓄品は異なります。家族にとって本当に必要な物を考えて準備。
- 例えば… 乳幼児：粉ミルク、離乳食、ほ乳瓶、紙おむつなど
 高齢者：介護用品、持病の薬など
 ペット：ペットフードなど

使いながら備える「ローリングストック」とは?

- 日頃購入している食品を少し多めに確保して、消費期限の近いものから消費し、同時に新しいものを補充していく方法です。
- 食料や飲料水をたくさん保存しておくことだけが備蓄ではありません。

